

# 牛久：学校周辺に見る自然

第20号 ひたち野西近隣公園(、筑波実験植物園)

2012年7月22日発行

< ネムノキが咲いています。 >



写真は水辺公園ですが、牛久市周辺では7月に入ってネムノキがきれいに咲いています。淡紅色の糸のようなかたまりが目立ちますが、これは雄しべの花糸で、その先に黄色の葯をつけています。そしてさらによく見ると、このかたまりは、細長いろうとのような形をした花卉に包まれた花が10数個集まってできていることが分かります。写真の右の花のかたまりを見ると、中に何本か、雄しべよりやや長めで白い糸状のものが見えますが、これが雌しべです。左のかたまりのように咲き始めは雄し

10数個の花が集まって咲くネムノキ。左が咲き始めて葯から花粉を出している。右は咲き進んで白い雌しべが伸びてきた。真ん中の花にだけみつがある。

べばかりが目だって雌しべは分かりません。葯はいきいきして花粉をたくさん出しています。咲き進み、雄しべがしおれるにしたがって雌しべがはっきりしてくるのです。じつは、ネムノキの花では雄しべが先に、後から雌しべが成熟して、雌しべが他の花からの花粉を受け取ることで、よい種子をつくるのです。図鑑などを読んでいたら、こんなことも書いてありました。10数個の花のかたまりのうち、てっぺんの1(～3)個は花卉が長くて雄しべが上にも横にも広がっており、その花だけがみつを出しているそうです。つまりネムノキは、少ないみつでたくさん花粉を虫たちに運んでもらえるわけです。うまくできていますね。次回訪れたときには、この点、確認してみようと思います。

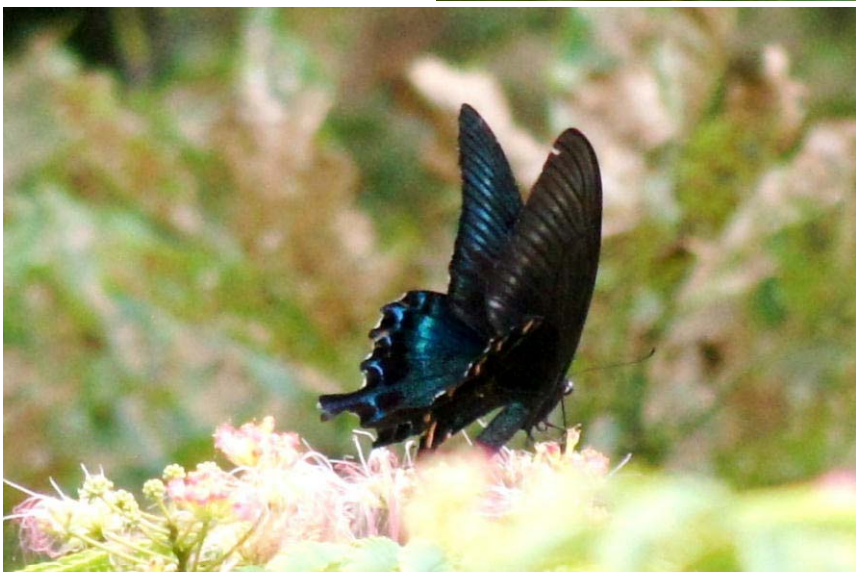




花を<sup>かんさつ</sup>観察していると、ブーンとハチがやってきました。オオハキリバチです。体が黒くて大きいのでこわい感じがしますが、おとなしく、手でつかんだりしなければ刺<sup>さ</sup>され<sup>され</sup>ないそうです。ハキリバチの仲間<sup>たけつ</sup>ですが、竹筒<sup>す</sup>などに松や<sup>す</sup>で巣をつくり、葉を切ることはないようです。

← まん中の花に来て、みつを吸うオオハキリバチ。

しばらくすると、もっと<sup>はくりよく</sup>迫力のあるハチがやってきました。おなじみのクマバチです。体も<sup>は</sup>おと<sup>と</sup>羽音も大きいのでこわがる人が多いですが、こちらもつかんだりしなければ刺<sup>さ</sup>され<sup>され</sup>ません（スズメバチのことを「クマンバチ」と呼ぶことがあって、誤解<sup>ごかい</sup>もあるようです）。  
やはりまん中の花に来て、みつを吸うクマバチ。 →



もう一枚は、翌日につくば市の筑波実験植物園で撮<sup>と</sup>ったもので、ミヤマカラスアゲハという私の好きな美しいチョウです。

ネムノキは夕方から咲き始めるようで、花粉を運ぶ昆虫も、これらハチやチョウよりスズメガなどのガが多いそうです。ネムノキという名前は夜になると小葉が閉じて垂れ下がるので「眠りの木」とされたそうで、そこに目だつ花が咲き、スズメガが

↑みつを吸うミヤマカラスアゲハ。7/10筑波実験植物園



↑枝を水平に大きく広げ、盃のような樹形。2006/12/5 筑波実験植物園

集まっているようすを一度見てみたいものです。

最後に、冬に撮<sup>と</sup>ったネムノキの写真です。いかがですか？ こうして葉がなくなると、全体の形や枝<sup>えだ</sup>がどのように伸びているかがよく分かりますね。ネムノキの場合は、枝を横に大きく広げ、全体がさかずきのような形になっています。こうして、お日さまの光をたくさん受けられるようになっているのです。日当たりのよい明るい場所によく見られることから、きっと太陽の光をたくさん必要とする樹木<sup>じゅもく</sup>なのでしょう。【理科支援員：宮内】